

# 私見 Saturday 創見

7月に、三沢高校2学年17人の生徒とエネルギーとは何かについて勉強したことは、前回本欄で紹介したが、今回六ヶ所村で、女子学生や一般女性と一緒に、エネルギー

政策について勉強する機会があった。「エネルギー事情を次世代と学ぶ」というテーマで、首都圏の女子大生と地元

生・函館の学生・津軽下北の女性の集い(フォーラム)が催された。私は、テーブルトークのセッションで、アドバザイザーとして参加した。エネルギーを考える未来塾(塾長・岡山せつ氏)が主催し、六ヶ所村、六ヶ所村教育委員会、むつ市女性団体連絡協議会が後援し、あすかエネルギーフォーラムが協力した。

## エネ問題考える女性の集い

# 科学的根拠基に冷静に



しもや・えいじ  
1951年、北海道生まれ。エネルギープロダクト取締役、みさわおもちゃ病院院長。室蘭工業大学院卒。

下谷 栄治

NORD58  
顧問事務所代表

今の日本では、東京電力福島第一原子力発電所の水素爆発事故以来、原子力関連産業は悪の権化のごときに取り扱われる風潮がまん延している。中には、自らのたくらみ

る。

る。

を實現せんがために、本来の意図を巧みに隠しながら、原子力を政争の具に利用する結社の存在も感じられる。

エネルギー問題は、あくまでも科学的根拠に基づき議論されるべきものであると確信するが、原子燃料サイクルの中核と言える使用済み核燃料再処理工場が最終検査を待つて操業を控えている地元六ヶ所村の皆さんは、原子力を取り巻くさまざまな動きに惑わされることなく、エネルギーという大局的見地に立ち、極めて冷静かつ真剣に向き合っている。

このフォーラムの特徴の一

つは、普通の市民女性が主催し、その参加対象を学生から高齢の普通の市民女性として行うことである。もう一つは、原子力をタブーにするのではなく、一方原子力ありきで礼賛することもないことである。さらに言えば、活動に政治的な意図や、宗教的な背景が全くないことも重要である。

実際、フォーラムでは、原子力施設の安全性に係る危険、すなわち重大事故の可能性や放射線に関する恐怖感、さらにはそこに携わる関係者や国などの行政に対する不信任をわだかまりなく発言し、出席者が共有していた。

同時に、われわれ人類が生きていく地球環境の全てに、「ゼロリスク」はあり得ないと言ふ厳然たる真理を科学的判断で受け止めることも共有していた。これらを前提に、安全、安定供給、環境、経済をキーワードとして、人類の生存と営みに必要不可欠なエネルギーをどのように選択するか、一方貴重なエネルギーをいかに効率よく利用すべきかを冷静かつ科学的根拠に基づいて真摯に討議し、自らの考えを構築していく努力をしていた。

フォーラムの締めくくりでは、今回の活動から得られた知見や発見を自分たちだけのものにとどめるのではなく、身の回りの人々から始め、多くの方々に自らの考えを伝え、エネルギー問題をそれぞれに考えていくことの必要性和重要性の観念を広めていくことを確認していた。